

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73108	3	前期	必修	1	30
授業科目名 (英文)	基礎看護援助方法V (基礎看護技術の統合) (Basic for Evidence Based Practice V)				
担当教員名	宮本 千津子/吉田 澄恵/阿部 恭子/安藤 瑞穂/平田 美和 新井 麻紀子/大西 淳子/藤巻 郁朗/伊能 美和				
授業の概要及び到達目標					
<p>授業概要</p> <p>本科目では、これまでのI～IVの学習を統合し、健康が障害された対象の個別的な状態に応じた身体・生活の観察およびアセスメントと、これにもとづく対象の日常生活援助技術の適切な選択、実施、評価が実践できる力の獲得をめざす。さらに、情報伝達のうち緊急時における適切なコミュニケーションを理解する。これらについては、客観的臨床能力試験(OSCE: Objective Structured Clinical Examination)を実施し、引き続き開講される各論実習前の自己課題の明確化を行うとともに、看護実習生としての質保証の必要性を理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康が障害された対象の個別的な状態に応じた身体・生活の観察およびアセスメントができる。</li> <li>2. アセスメントにもとづく対象の日常生活援助技術の適切な選択、実施、評価が実践できる。</li> <li>3. 情報伝達における適切なコミュニケーションを実施できる。</li> <li>4. 各論実習前の自己の課題を明確にできる。</li> </ol>					
準備学習等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎看護援助方法I～IV、基礎援助実習I・IIの学びを復習しておくこと。</li> <li>・ 事例のケアに必要な看護技術についてはe-Learning(ナーシングスキル)を活用すること。</li> </ul>					
成績評価の方法	OSCE 60%, ふりかえりレポート 40%				
テキスト	指定なし				
参考図書	必要時はその都度紹介する				

備 考	<p>本科目は、基礎看護援助方法ⅠからⅣ、および基礎援助実習Ⅰ・Ⅱの学びを積み上げ、3年後期からの実習科目へつなげる学習である。</p> <p>演習の少人数グループおよび日程などは別途指示する。</p> <p>出席については20分以上の遅刻は欠席とみなす。</p> <p>オフィスアワーは、履修案内の看護学科「オフィスアワー」の項をご参照ください。</p>
授 業 計 画	
第1回	学習の目標と方法および評価、事例提示
第2回～3回	事例演習：メンタルシミュレーション
第4回	<p>口頭での情報伝達①</p> <p>口頭での情報伝達の利点と課題、SBAR</p>
第5回	<p>口頭での情報伝達②</p> <p>看護場面に関する情報伝達の実施</p>
第6回	<p>口頭での情報伝達③</p> <p>情報伝達に関する吟味と改善</p>
第7回～9回	事例演習：フィジカルシミュレーション
第10回～14回	<p>客観的臨床能力試験（OSCE）</p> <p>ふりかえりと自己課題の明確化</p>
第15回	まとめ